

すそみ点減交差点

春の桜御膳 桜おこわ



春の花と言えは「桜」、日本の文化を語る時は欠く事が出来ません。その桜の料理を飯田猷子さん（館地区在住）に伺いました。

毎年桜の塩漬けを手作りなさるといふ飯田さん。紅色の美しい色合いは、花を白梅酢に漬けるとより美し

く赤くなるそうです。桜漬けのたっぷり入ったおこわ、豊かな香りと淡い桜色、上品な塩味の美味しさが口の中いっばいに広がります。

「耳菜草」や「母子草」など春の野草の料理も教えていただきました。「耳菜草」のおひたし、優しい甘味はおこわに良く合います。

まさに自然の「恵み」を頂きながら生きる日本人の知恵から生まれた貴重な桜の料理と言えましょう。



石井博子（神郡地区）

炊飯器でつくる桜おこわ

材料 (3合分)
もち米2.5カップ、うるち米0.5カップ、水2.7カップ（お米の1割減にする）、だし昆布10cm位、塩小さじ1/3位、桜の塩漬けは塩のついたままを30g（うち10gは飾り用にとっておく。残りの20gを水洗いし、5mm位の長さに切っておく）、食紅少々

作り方
米をといだら桜の塩漬けと塩を入れ、食紅を桜色に染まる程度にほんの少量加える。上にだし昆布をのせてすぐに炊く。炊きあがったら上に飾り用の桜をのせて食する。

- <桜の塩漬けの作り方>**
- ①桜は八重桜（ぼたん桜のこと）、花房が五部咲きものを用意する。
 - ②桜をひたひたの梅酢に重石をして2日漬けたあと、軽くもんでからしぼる。
 - ③固くしぼった桜に塩をたっぷりとまぶし、ザルにのせて丸1日天日干しをする。
 - ④これをビンに入れて保存しておくこと、お茶やお菓子にと1年中利用することができる。冷凍も可能。

※「すそみろく」は全労済地域貢献助成事業「都市と農村を結ぶ「すそみの森」づくり」の一環として一部助成をいただいています。

地図に名のない 神郡山の山桜を探してープレ・お花見隊がゆくー

神郡山の山桜の話である。まず神郡山はどこにあるのか。筑波山の東側にある山々の中間あたりらしい。天保7年（1836）神郡村「絵図」を見ると「六所神社跡」の後「宮山」「宝山」南側の付近に神郡山と記されている。古い絵図のため、現在の地図との比較がやや難しい。標高400メートルほどの山で、表筑波スカイラインが走る。現在の国土地理院の地図には、神郡山という明記がない。全体を指して神郡村の山という意味もあるかも知れない。また地図には3つほどの三角点があり、そのひとつだろ。すそみろく第3号にのった、共有林（入山）の一部でもある。

少し遠くには宝篋山を見ることが出来る。はるか昔、つくば市山口から、山を越え、館、六所に入り筑波山に向かったというルートがあるらしい。そこは、4月中旬、見事な山桜が咲く。春が進むにつれ、山が息をし始め、生命があふれ出るのが見てとれる。若い頃、あんまり地域の景色などに関心はなかったのだが、最近、山を見ると、「すごい立体感ですね」と言ったりするようになった。



山桜咲く神郡の山々（撮影：御手洗竹松）

た。いくらか加齢して、景色が見えるようになったのかなあと思っていたら、「山桜がかってより大きくなつたんだ」という古老の話もあった。地上に咲くソメイヨシノもいいが、筑波山麓にカリフラワリーの如く、浮き上がる山桜はほかに類もないぐらいに素晴らしい。

ヤマザクラは普通の桜よりも寿命が長い巨木になるらしい。神郡山の山桜は切らなかつたので、大きくなつたのだという。かつては、山があつた松に替わり、山桜が主人となつていくのだろうか。同じ場所に育つヤマザクラでも一週間程度の開花時期のずれがあるため、ソメイヨシノとは違って、短期間に花見をす



絵：皆川 圭（田井小5年）

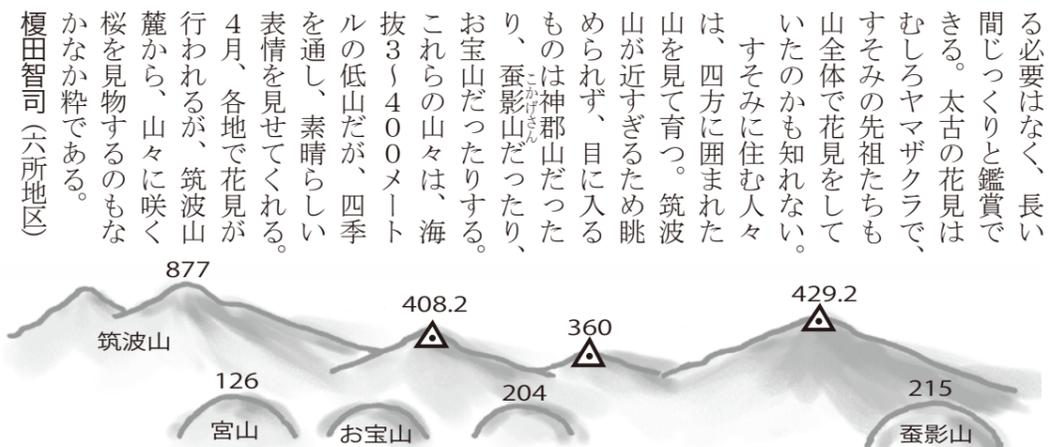
つくし会「優秀賞」に輝く
六所児童館で毎週火・木に活動を続けている健康体操クラブの「つくし会」が、「健康いばらき21元氣アップ」優秀賞を受賞し、2月19日茨城県知事より表彰を受けた。「つくし会」は、同じく優秀賞を受けた「つくばね運動教室」とともに、6年前に筑波大学久野研究室の高齢者健康づくり研究の一環として、2年間に渡り健康体操の実践を行った。その顕著な効果が学会やNHKで紹介され、注目された。研究終了後も自主活動を継続し、ますます元気に楽しく、健康づくりを推進している。今では、地区内外から20名以上の参加がある。高齢者に限らず、新規参加を歓迎。 森田源美（六所地区）

つくし会 神郡地区	櫻井誠
つくし会 神郡 肥田澤	肥田久子
つくし会 神郡	普門寺
つくし会 神郡	飯田猷子
つくし会 神郡	上野節子
つくし会 神郡	飯村清子
つくし会 神郡	飯村恵子
つくし会 神郡	榎田智司
つくし会 神郡	柳瀬敬
つくし会 神郡	梅田道雄
つくし会 神郡	結工ディット
つくし会 神郡	秋山昌範
つくし会 神郡	出口正義
つくし会 神郡	藤村コノエ
つくし会 神郡	土田君枝

デザイン：小沢陽子（漆所地区）



私たちが応援してます！



すそみ編集部は「白滝古道」に続き、まだ花が咲かない3月、木の場所を確かめるため神郡山の山桜を見に行こうと探検にかけた。その桜

榎田智司（六所地区）

は谷に面して、こともあろうに大きな岩の上に根をおろしていた。岩には、瘤のように根が出現している。幹は二股、三股、よく見ると五つに別かれ、それぞれが太くたくましい。



山桜の巨木に出会う

薪づくりで薪づくりを

昨年12月から5回にわたって、神郡の細草川周辺で「筑波山麓・霞ヶ浦水源の薪づくり」をつくば環境フォーラムの主催で行いました。かつて薪や炭の材を供給した筑波山麓の森は、今では手入れも滞り、篠竹が生い茂ってイノシシの格好のねぐらとなっています。

薪づくりは、まずこの篠竹を刈り払うことから始まります。森では毎年の落ち葉がふかふかの腐葉土となり水をためる働きをしますので、篠竹が密生すると根がマット状に広がって雨水の浸透を妨げます。実際、昔に比べ沢の水量が少なくと地元の方々は話します。そこで今回はまずたくさんのボランティアで

見上げると、高く高く空に向かって枝を広げている。桜には何者かが宿るといいますが、まさに何か見えざる者の気配が感じられた。

今回の探検は、道なき道を登るハードなものであった。杉林や枯れ木の多い松林を抜けること1時間あまり、多くの山桜に出会えた。平地の桜とは趣が異なり、野性味が感じられる木々であった。その中でも前述の木が一番印象に残った。花の盛りをぜひ見てみたいものである。

遮那ひろみ（神郡地区）

「薪プロジェクト」スタート！

刈り払い作業をしました。

薪炭林の雑木林は10〜15年周期で伐採され、切り株から若い枝が再生することで森が若返り、その豊かな自然が続きます。ただ木は大きくなりすぎると切っても再生しないので、今、木を切ることは雑木林の自然再生にとって必要です。そこで、篠竹を刈り払った後、大きい木を伐採しました。直径60cm以上もあるクヌギやコナラは、専門家でないといけません。今回はいばらき森林クラブの方々の応援により切り倒すこと



チェーンソーを使った伐採

ができました。

切った木は薪にしました。木を切り使うことで森が若返る、使うために継続的に手入れする、そういう循環を再び作ることも、雑木林など人のかかわりによって自然が豊かになってきた里山では大事です。そこで、使い手である薪ストーブ愛好家の方々に呼びかけたところ、ボランティアに参加する人も増えました。

山で切り倒した木は丸太に切って運び出し、斧で割って薪にします。慣れるとスパッと割れて爽快です。運び出すのにも薪に割るのにも、割った薪を乾燥用の棚に積むのにも、人が多いほど楽しく効率的に作業

できます。毎回の活動には50名以上の方が集いました。気持ちよい汗を流して、おいしいお昼を食べながらわいわい交流するのも楽しみのひとつ、筑波山麓の森や薪が結んだ縁が、山も人も元気にしてくれらる感じました。みなさんも、薪づくりや薪づくりに参加してみませんか。



薪割りは割れた瞬間が爽快

田中ひとみ（つくば環境フォーラム）

すそみ・わたしのお氣にへり②

燧ヶ池の榎

臼井と沼田の境にある燧ヶ池のほとりに、大きな榎がある。池の周りに植えられた桜がほとんど枯れてしまったにも関わらず、自然に生えた榎は、毎年4〜5月に小さな淡黄色の花を見事につける。

古く万葉集では、巻十六に
我が門の榎の実もり喫む百千鳥

千鳥は来れど君ぞ来ませぬ

とある。昔から小鳥が好んで果実を食べる木として、知られていたらしい。広い枝張りとおびつた樹冠に趣があり、一般的に屋敷木として多く植えられている。

この榎は、遠くから見ると、シエル・シルヴァスタイン作の絵本『大きな木』そのものだ。大きく長い腕を広げ、全てを無条件に包み込むような、深い優しさに満ちあふれている。

私が、この榎の存在に気がついたのは、一枚の写真からだ。私が一人で結婚式へ出掛けたとき、主人と子どもたちがサイクリングに行き、榎をバックに撮った写真だ。私はそれを見て、不思議な安らぎのような感情を抱いた。

それからしばらくして、NHKの教育テレビ番組で、小学校の道徳用のドラマ「さわやか三組」の撮影に、



子どもたちを見守る榎の老木

この榎が登場した。主人公の女の子は、学芸会で主役をやりたいかったのだが、「木の精」の役になり不満だった。しかし、榎を描く「不思議なおじさん」との出会いで、心を開き、「木の精」をやる決心をするという物語。ここで、榎は重要な役割を果たし、何回も登場していた。「木には人の思い、祈りが込められている。木そのものだけでなく、それらも大切にしたい」というメッセージが伝わってくるドラマだった。

人にはそれぞれ価値観があり、一様ではない。しかし、人々は昔から神のごとく自然を愛し、敬い、祈ってきた。今を生きる私たちは、それらをふまえ、これからも木と付き合い続けていかなければならない。榎の、この力強さを守っていくためにも…。

菊地 都（立野地区）

「田井の水溜め」その後

前号で「田井の水溜め」の情報を募集したところ、さっそくお知らせいただきました。前号で誤った点もありましたので、それを修正し、整理し、掲載いたします。

●水溜めのあった場所は、「番影山」でなく、「田井小」の上の山べり。その場所へは、いまヤブになって行けない。

●水溜めは、水が湧いていて、それを凍らせた。水を作っていた方は、現在80歳位で、数年前までその場所にセリなどを摘みに行っていた。

●水を作るのを止めたのは、製氷技術が発達したことや、家庭に冷蔵庫が普及した時代背景に加え、冬場も温かくなり氷が張りづらくなったこと。さらにゴルフ場ができて農薬などの心配から、仕方なく止めた。

●氷は、氷倉（氷室）におがくずを入れて、その中で保存した。馬の背に付けて石岡の祭りに運んで売ったりした。氷倉は3年前まではあり、写真を撮りにくる人もいた。

「再び氷が作れば」と考えたのが始まりでしたが、今後、山の手入れや養蚕など、少し前の山里の暮らしを掘り起こしていきたいと思えます。貴重な情報をありがとうございます。野末たく二（編集部）

インフォメーション

●紫の会第6回草木染展
筑波山麓の樹木や草で染色した布を使った着物・洋服・暖簾・小物などの作品展
紫の会は、毎月1回、筑波ふれあいの里で染色教室を開催しています。今年、白梅や桜、子年にちなんだネズミモチからの染色を展示します。
5月3日（土）〜5日（月） 10時〜16時
田井ミュージアム／入場無料
[問] 自然生クラブ
029-866-2192

●田楽の集い 田植え
筑波山の麓で、アイガモ農法による無農薬の米作り。黒米や赤米を手植えします。あぜで田楽舞いもあります。
5月18日（日） 10時〜15時 / 雨天中止
山の神の谷津田（つくば市神郡2336）
参加費 大人1000円・小人500円（昼食あり）／対象 幼児〜大人、障害のある方、どなたでも。／持ち物 着替え
[問] 自然生クラブ
029-866-2192

●すそみの田んぼの米づくり
沢水をひいて無農薬でおこなう「生きものと共存する米づくり」です。美しい筑波山を眺めながら一緒に！
5月17日（土） 棚田の田植え
6月14日（土） 田んぼの草取りと生きもの観察会／参加費900円（昼食つき）
ご家族どうぞ！
[問・申込] つくば環境フォーラム
029-863-5151

あなただけの
快適な住まいをお手伝い

なんでもご相談下さい

建築設計、監理、許可

柳原建築設計事務所

〒300-4212 つくば市神郡 2550
TEL029-866-1530 FAX029-866-1531

居酒屋

長久

お気軽にどうぞ！！

居酒屋 長久

(代) 三田部長久

つくば市神郡 365-2 TEL029-867-0728